

(1) 特筆すべき教育活動の取組と成果（大学教育改革の支援プログラム（GP等）の採択状況と取組、グローバルCOE等の大型プロジェクトの採択・実施状況などを含む。）

- ・教育情報基盤センターは、全学教育「情報基礎」科目の教育内容の標準化と、同科目の教育方法に関する授業担当教員への指導・助言を担当している（『全学教育改革検討委員会報告』（平成12年4月評議会承認）に基づく）。このような教育上の重要な役割を学内共同教育研究施設が担っている例は、他の主要国立大学にはない。

平成22年度は、本学における教養教育改革の流れに呼応して、全学教育「情報基礎」を全面改訂した。教養教育が知識力と人間力を涵養する青年期教育であることに鑑み、アカデミックスキルとソーシャルスキルの涵養を二本柱とする内容となっている。

特にアカデミックスキルには、北米の高等教育で標準的な教養科目で、K-12の科目としても普及しつつある「Computational Thinking」に対応する内容を取り入れた先進的なものとなっている。
- ・教育情報基盤センターが提供する英語eラーニング教材の活用促進と、本学における英語対応スキルの一層の向上を目指し、平成23年6月13日から6月18日にかけて「英語学習法カウンセリング・セミナー週間」を開催した（主催：教育情報基盤センター、共催：SLAサポート室、後援：学務審議会外国語委員会、協力：株式会社アルク）。8コースを受講予約者優先の少人数クラスで実施し、学生・教員・職員のべ137人の参加があり、受講後のアンケートで高い満足度が確認された。

(2) 特筆すべき研究・診療活動の取組と成果

- ・東北大学とNTTとの連携協力協定に基づき、平成22年度第4四半期から教育情報基盤センターがNTTサイバーソリューション研究所と共同で教育系デジタルツールの研究開発を行っている（平成23年度も継続：「レクチャー映像からのナレッジ発見共有を促進するための運用モデルに関する研究」）。大学院教育情報学研究部と大学教育支援センター（高等教育開発推進センター）の教員が研究協力者として参画するなど、教育と情報技術が重なる領域を専門とする本学教員が結集して取り組んでいる。
- ・教育情報基盤センター所属の学術振興会特別研究員1名が、情報技術を活用した授業リフレクション手法の専門家として、先進的なFDで著名なメルボルン大学に1年間滞在し、同大学が実施する各種FDに関する取り組みや情報技術活用に関する調査・研究を行うとともに、これに基づき、本学大学教育支援センターの大学教員養成プログラム(PFFP)がメルボルン大学で開催した研修プログラムの内容の企画・実施に中心的に参画した。

(3) 特筆すべき社会貢献、国際化等の活動の取組と成果

- ・ 高等教育機関における情報教育の高度化と教育技術の一層の向上を目的として、平成 21 年度情報教育研究集会（東北大学主催、文部科学省後援）での講演とポスターを対象に論文賞の選考を行い（委員長：東北大学教育情報基盤センター長、委員：国立大学情報教育センター協議会会員大学教員若干名）、平成 22 年度情報教育研究集会（京都大学主催、文部科学省後援）の場で表彰した。
- ・ 高等学校（茨城県立牛久栄進高等学校）の学生約 100 名に対して、マルチメディア教育研究棟において大学体験授業を実施した（平成 22 年 10 月 5 日）。
- ・ 高等教育・学術研究機関における情報通信技術を利用した教育・研究・経営の高度化を図り、日本の教育・学術研究・文化ならびに産業に寄与することを目的とした「大学 ICT 推進協議会」（一般社団法人）の設立にあたり、教育情報基盤センター教授が設立準備委員として参画した。

(4) その他、特筆すべき活動等の取組と成果

- ・ 教育情報基盤センターは、教育環境だけでなく学生支援についても情報技術の活用を推進するため、高等教育開発推進センターの業務組織（保健管理センター、学生相談所、キャリア支援センター）のウェブサーバーの管理運用などを担当している。
- ・ 医学系研究科および工学研究科で独自に管理・運用されていた英語 e ラーニング教材を、本センターのサーバーに集約し、運用の効率化を果たすとともに、東北大学統合電子認証システムと連携することによって、本学の全学生・教職員がそれらのコンテンツを利用できるように改善した。また、中国語や IT パスポート資格等のコースを試行的に導入し、コンテンツのさらなる充実に努めている。
- ・ 教育情報基盤センター情報教育部門教授は大学院情報科学研究科の専任教員であり、同研究科の大学院 GP「情報リテラシー教育専門職養成プログラム」（平成 20 年度～平成 22 年度）に参画してきた。